

女性

働く



連載1回目で紹介した非正規公務員たちによる院内集会の様子を引き続き報告したい。この日、当事者たちが相次いで告発したのは、妊娠を告げた途端、雇止めされる現実だった。

妊娠・出産で横行する雇止め



非正規公務員の女性たちが深刻なマタハラ被害を報告された。民間企業では女性の妊娠・出産をめぐり、雇止めや賃下げが行われている。しかし、実際には面接の機会もないまま、最終出動日が過ぎた後、電話で問い合わせを初めて自身

れど抗うことは難しい。集会で発言した女性たちは、いずれも複数年度にわたって問題なく任用更新されてきた。突然、雇止めや賃下げが理由とならなくなった。女性たちは彼らに訴えかけた。国や地方自治体において、女性にこうした疑念を抱かせる働き方や、組織の胸三寸で決まる雇止めが許される余地があることを、異様に言わさるを得ない。

取材の現場から

「マタニティーハラスメント」

ジャーナリスト 藤田 和恵



ハカリーでぎやわ駅にも「クマ出没注意!!」の看板(東京都のある野市。自治体の出没情報をチェックし、クマに出遭わないようにすることが、被害を防ぐ基本です。)

相次ぐクマの出没、被害 どうしたら？



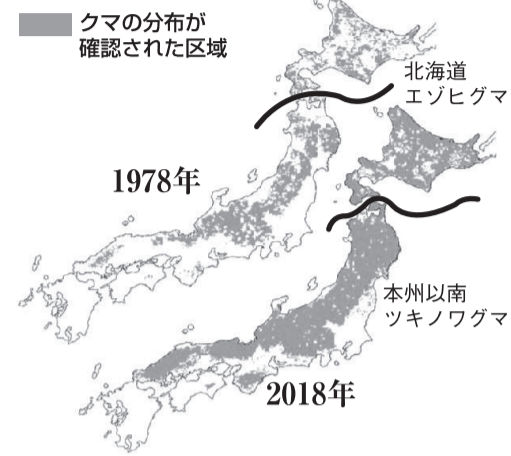
クマの専門家、東京農工大学大学院教授 小池伸介さんに聞く

クマによる被害者数は、昨年度、全国で308人、死者は13人と過去最多になりました。今年も春先から、市街地への出没や人への被害がニュースをにぎわしています。なぜクマは市街地へ近づいてくるのか、どんな対策が求められているのでしょうか。NGO日本フマネット・ワーフ代表の小池伸介さんに聞きました。

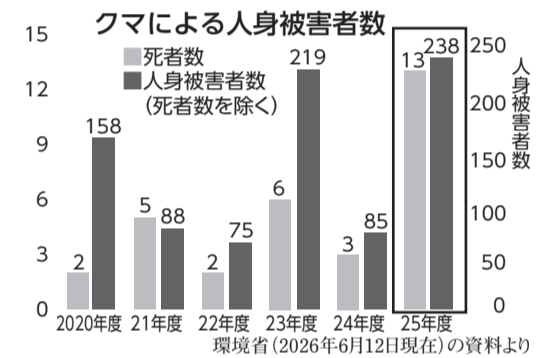
なぜクマの出没が増えているのか

昨年の秋、特に北海道(秋田県、岩手県)はクマの主食であるドングリの実りが悪かったことが、クマの大量出没を引き起こす引き金になりました。ただ、こうしたことは、急に起きたわけではなく、2000年以降、クマの出没は、数年おきに、日本各地で割と頻りに起

クマの分布は40年で約2倍に拡大



※環境省の資料に基づき、東京農工大の小池伸介教授が作成



政府が昨年11月に発表した「クマ被害対策パッケージ」は多岐にわたる。予定どおり進めば、クマの問題は徐々に収束していくと思

住民レベルでできるクマ対策

クマが出没したら駆除する現状の対応だけでは、またすぐ次のクマがくる。一つ一つの事例から、クマが集落に近づく根本原因を取り除く対策が必要です。そのために、住民ができることもありま

人とクマとの新たな関係を築く

行政が中心に担う課題は多いのですが、ゆくゆくはゾーニング、人とクマの住み分けをどう実現するかに尽きます。人とクマは同じ空間に共存することはできないので、クマを山側にグッと押し戻す

推進の鍵となるのは、人材の育成と確保です。専門知識を有した行政職員の必要性については、すでに2019年に日本学術会議から環境省に答申があったことを受けて、国

ホットライン

千葉

憲法カフェを網の目に

【流山支部 酒井加代】憲法カフェを6月20日に開きました。東葛法律事務所 鈴木祐樹弁護士を講師に、「憲法大好き講座パート1」憲法の優しさを世界に発信。広報紙モカレンジャー、チラシなどで宣伝し、会場いっぱい32人の参加で、1



網の目のように広げよう▲千葉

愛知

「大人時間倶楽部」小組で改憲反対

【名古屋支部あみつ班 齋藤恵子】「大人時間倶楽部」小組は6月10日、岐阜中央図書館と岐阜公園へ。9条をめぐる高市



さりげなく(?)アビール▲愛知

滋賀

「憲法守りたい」と学習会

【彦根支部ミモザ班 長谷川さふみ】6月21日、元永佐緒里弁護士を招いて「憲法について話そう」学習会を豊郷町隣保館で

開きました。会員5人のミモザ班と生活と健康を守る会、とよさど9条の会共催で、28人の参加でした。ミモザ班は、憲法を気軽に話したいと8月には憲法カフェを計画しています。

奈良

小組のあとにアクション

【奈良支部塚塚山班・古都華班・とろろき班】水曜日のうたのアラカルト小組の後に、学園前駅が富雄駅で、9条改憲反対署名などの宣伝行動を始めました。今の政府がすすめている戦争する国つ



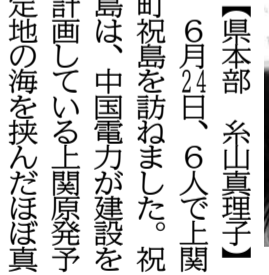
もう6回重ねて▲奈良

山口

祝島を訪問しました

【県本部 糸山真理子】6月24日、6人で上関町祝島を訪問しました。祝島は、中国電力が建設を計画している上関原発予定地の海を挟んだほぼ真

向かいに位置する島で、約250人が住んでいます。島に足を運んでいるYさん(熊毛支部)の案内で、まずは原発反対運動を島でしている男性のKさん(長年の反対運動の経緯を聞きました。そして3月の「上関原発を建てさせない山口県大会」で読者になったOさんを訪ねました。



読者の友人と一緒に▲山口

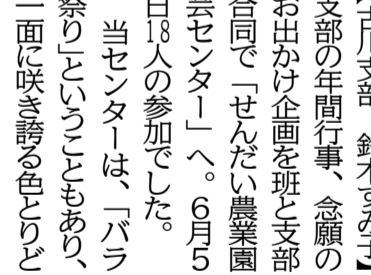
宮城

班・支部合同 研修小旅行

【古川支部 鈴木すみ子】支部の年間行事、念願のお出かけ企画を班と支部合同で「せんだい農業園芸センター」へ。6月5日18人の参加でした。当センターは、「バラ祭り」を行うこともあり、一面に咲き誇る色とりど

りのバラに癒されたいというリフレッシュ。バラ園で偶然、声を掛けられたのは昔からの知人で、新婦人のみんなときたことを話した読者に。次に地元野菜をふんだんに使ったバイキングに舌鼓、体を動かしたランチャームでした。バスの中や他の班の人たちとの交流、いつまでも体や環境に優しい社会でありたいと願った研修小旅行でした。

者17人のうちゲストは5人。うち2人は、公民館に置いたチラシを見ての参加でした。発酵食品の大切さと日常に生かして生活している講師で新婦人会員の話やアドバイザーを聞いて6品を作りました。新鮮な野菜も講師の畑の物。来月の絵手紙小組にきたという方もいました。



野菜の買い物も▲宮城

【五戸支部 磯野真言】発酵食品料理教室を6月20日に開きました。参加



6品もつくり大満足でした▲広島

ホットラインの投稿は編集部メールアドレス s-press@shinfujin.gr.jp へ